

「人生の先生」

伊東市立宇佐美中学校三年 笠原 美優

私は小学生の頃からダンスを習っています。

最初は、音楽に合わせて体を動かすのが楽しいという単純な理由で始めました。しかし、続けるうちに、ダンスはただの趣味ではなく、自分を大きく成長させてくれる大切なものになっていきました。今では人前でも堂々と踊ることができる私ですが、小学生の頃の私は、人前に立つと緊張して、体が思うように動かず、表情が硬くなってしまいました。先生から、「もっと大きく、気持ちを込めて。」

とアドバイスされ、頭では分かっているけど体で表せず、悔しい思いをしました。けれども、繰り返し練習をして、鏡や動画で自分の動きを見直すうちに、少しずつ自信が持てるようになりました。その練習を通して、人前で自分を表現する勇気が身についたのだと思います。

また、ダンスは努力を積み重ねることの大切さを教えてくれました。ダンスの技は、学年が上がるにつれて、難易度も上がります。六年生のとき、何度練習してもできない難しい技がでてきて、失敗ばかりで落ち込みました。諦めそうになった私に、先生は、

「できないときこそ伸びるチャンス。」

と声を掛けてくださいました。その言葉に励まされ、毎日コツコツと自主練習を続けました。練習に練習を重ね、失敗に失敗を重ね……半分諦めかけたその時、失敗せずに成功させることができました。

努力は、すぐに効果が出なくても、続ければ必ず自分の力になると実感しました。この体験は、勉強にも生かせる学びになっています。

また、ダンスは個人の表現も大切ですが、グループで踊ることもあり、お互いの動きを合わせる必要があります。初めてグループでの作品に取り組んだとき、私は自分の動きに必死で、全体のことまでは意識できませんでした。しかし、仲間と声を掛け合ったり、練習後に話し合ったりするうちに、徐々に息が合うようになりました。みんなで一つの作品を作り上げる喜びを感じながら、協力することの素晴らしさも強く実感できました。学校生活でも友達と話し合って意見をまとめたり、クラスで協力して行事に取り組んだりするときに、この経験が役立っていると感じます。

ここまでお話ししましたように、ダンスは私に多くのことを教えてくれましたが、その中でも特に忘れられない出来事がありました。それは今年の発表会でのことでした。私たちのチームはこれまでの成長をすべて出し切ろうと強い気持ちで練習を重ねました。しかし、本番前日、数人のメンバーが体調不良になってしまい、出られなくなったのです。突然のことにみんな動揺しました。先生が、

「残ったメンバーでできる最高のステージを見せよう。」

と声を掛けてくださいました。私たちは急ぎょ立ち位置や振り付けを調整し、時間のない中、必死に合わせました。不安もありましたが、本番では一人一人が力を出し切り、観客の皆

さんからは大きな拍手をいただきました。そのとき私は、仲間の思いを背負って踊ること、困難を乗り越えるために知恵を出し合うことの大切さも学びました。この経験でただ一緒に、何かをするだけでなく、協力することの本当の意味を知ることができました。

中学三年間を振り返ると、ダンスに出会えたからこそ得られた経験や成長がたくさんありました。もし、ダンスをやめていたら、人前で堂々と表現する勇気も、努力を積み重ねる大切さも、仲間と協力する喜びも知らないままだったと思います。中学校を卒業し、新しい環境で様々な挑戦をしていく中で、不安を抱えたり、壁にぶつかったりすることもあるでしょう。けれども、私はダンスで学んだことを支えにして前を向き続けたいと思います。ダンスは私にとって単なる習い事ではなく、自分を成長させ、進化させてくれる人生の先生だと感じています。